



中村元記念館開館五周年特別企画

スケッチと水彩で描く

# インド 仏跡巡拝 の旅

瀧博道作品展



2018. 8. 2(木)▶11. 30(金)

前期:8. 2(木)ー9. 30(日) 後期:10. 2(火)ー11. 30(金)

※前期と後期で、作品を入れ替えます。

中村元記念館

[開館時間] 10:00~18:00 (最終入場: 17:30)

[期間中の休館日] 毎週月曜日、夏季休館日: 8月13日~15日 [入館料] 無料

[会場・お問い合わせ] 中村元記念館

〒690-1404 島根県松江市八束町波入 2060 番地 TEL:0852-76-9593 FAX:0852-76-9693



樋 博道 (ながたに ひろみち)

1946年8月30日生 松江市石橋町出身

1965年 島根大学教育学部美術科 入学

木村 義男先生、井上 善教先生、米原 智先生 に教わる

1998年3月 インドスケッチ旅行

2011年3月 インドスケッチ旅行

2014年2月 インド仏跡巡拝旅行 (中村元記念館主宰)

現在 順光寺墨絵教室 講師

島根アンデパンダン展 実行委員

中村元博士 (1912-1999) は、松江市制 100 年の年にあたる平成元年に、「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られました。中村博士が書かれた著作は、インド哲学・仏教学・比較思想など中心として 1500 点を数えます。インドは中村博士が生涯を通じて学問的関心を寄せられた国であり、日本に古くから伝えられる仏教も、今からおおよそ 2500 年前に、インドでゴータマ・ブッダ (釈尊) が唱えた思想がもとになっています。中村博士もまた歴史的人物としてのブッダの姿と思想を追い求められました。



ゴータマ・ブッダ (釈尊) の生まれた年、亡くなった年は、紀元前 463 年から紀元前 383 年とする中村博士の説のほかに諸説ありますが、現在でも正確なところはわかってはいません。しかしながらブッダの思想や姿は、各地にのこる仏伝や絵画、彫刻、仏蹟などによって現在に伝えられています。仏蹟 (ぶっせき) とは、ブッダの生涯のなかで特に象徴的な出来事に由来する土地のことで、聖地として世界中の仏教を信仰する人々が訪れる場所となっています。

中村元記念館と樋博道 (ながたに・ひろみち)、暁子 (あきこ) 御夫妻との縁は、2014 年 2 月、記念館最初のインド仏蹟巡拝旅行に遡ります。このときは佐々木一憲氏 (現：立正大学講師) を講師として、サールナート、ブッダガヤー、ラージグリハ (王舎城) という 3カ所の仏蹟を訪れましたが、ブッダが最初に説法をした地とされるサールナートで、スケッチをされている博道氏の姿がとても印象的でした。樋夫妻は、このほかにも何度もインドを訪れ、人々の姿を描き続けてこられました。

一朝 水汲み場の女性を描いていたら、仕事の手を止めて描き終わる迄ポーズをとってしてくれた。終わってサインをしてもらおうが、ヒンドゥー文字で読めない。何度も聴き返してふりがなを打つ。又、レストランで自分が描かれていると知った女性は、右手を少し持ち上げて食べる途中の姿勢のまま、ずっと微笑んでくれた。なんて好意的な人たちでしょう。—

これは暁子夫人の手になる文章ですが、中村博士が言われる「慕わしい、やさしい人」であったブッダの精神が現在のインドの人々にも受け継がれているように感じられます。本展で、そうした人々の息吹を感じていただければ幸いです。



中村元記念館 5 周年企画 実行委員会  
中村元記念館スタッフ一同)

